

第5学年2組 社会科学習指導案

【日時】令和7年7月24日（木） 10:20～11:05 【場所】5年2組教室 【指導者】井上 太晶

本授業の参観の視点

日本の米作りにおける課題を捉え、「追究の視点」を用いて米の生産量を増加させる取組について議論することを通して、多角的に方策を練り上げていく姿をご覧ください。

1 単元名 米作りのさかんな地域 ～守ろう、日本の主食！安定供給の実現に向けて～

2 単元の構想

(1) 単元について

本単元は、我が国の農業や水産業における食料生産について、米の生産過程や人々の協力関係、技術の向上や輸送、価格や費用等に着眼して、米の生産に関わる人々の工夫や努力を調べまとめることを通して、現在の日本の米作りの現状や課題を捉え、これからの米作りの在り方について考えていこうとする態度を養うことを目的としている。

米は日本人の主食であり、国民の食生活に欠かせないものである。しかし、米の価格は2024年6月から2025年5月にかけて約2倍近く高騰し、その後も高い水準で推移している。その主な要因の一つとして、米の生産量の低下に伴う米不足が挙げられる。実際に、我が国における米の生産量は1960年代の約1800万tをピークに年々減少しており、2024年にはその半分以下である約730万tまで減少している。米の生産量の減少の背景は、「労働力不足」や「天候等に左右される生産の不安定さ」、「需要の低下」や「生産コストの増加」等、多岐にわたる。多くの課題を抱える米作りの現状を改善し、米の生産量の増大及び安定供給の実現を目指すことは、我が国の喫緊の課題と言える。米作りは、生産者のみならず行政やJA等の関係機関といった様々な立場の人々の連携・協力によって成り立っている。そして、食料を購入する決定権をもつ消費者である我々も、米作りを支える重要な存在である。だからこそ、米作りの課題を自分事として捉え、課題の解決に向けて主体的に解決策を模索することが求められる。日本の米作りの在り方を様々な立場から多角的に考え、議論することは、よりよい社会を目指し、多様な人々と協働しながら、社会に見られる問題を発見、解決しようとする公民としての資質・能力の基礎を育むことにつながると考え、本単元を設定した。なお、本単元で学習する「食料生産に関わる人々の工夫や努力」は、中学校で学習する単元「消費生活と経済」につながっていく。

(2) 児童について

本学級の児童(33名)は、生産や販売の仕事は地域の人々の生活と密接な関わりをもっていることや消費者の多様な願いを踏まえて工夫して行われていることについて学習しており、それらの仕事に従事している人々の工夫や努力についての理解は深い。また、本学級の児童は社会的事象に対する関心が高く、ニュースや新聞から米の価格が高騰していることを知っている児童は28名(88%)であった。一方で、米の価格が高騰している理由を調べたり、自分なりの解決策を考えたりした児童は2名(6%)と、社会に見られる問題を自分事として捉えている児童は少ない。ゆえに、食料生産における消費者の役割を理解し、これからの米作りのよりよい在り方を主体的に考える学習が必要である。

また、本学級の児童は前単元である「水産業のさかんな地域」において、『持続可能な水産業の実現』に向けて【実効性】【実現可能性】の2つの「追究の視点」を用いて議論をしている。学習後に、「追究の視点」は方策を考えたり議論したりする際に有効だったかを尋ねたところ、28名(88%)の児童が有効だと回答した。一方で、議論を通して自分たちの考えをさらによりよいものにできたかという質問に対して肯定的な回答をした児童は13名(41%)で、自分とは異なる意見を受けて、考えを再構築することに課題があることが分かった。本単元を通して、根拠や理由を明確にして論理的に説明したり、他者の主張を踏まえた議論をしたりすることで、考えを練り上げることができるよう児童の姿を目指したい。

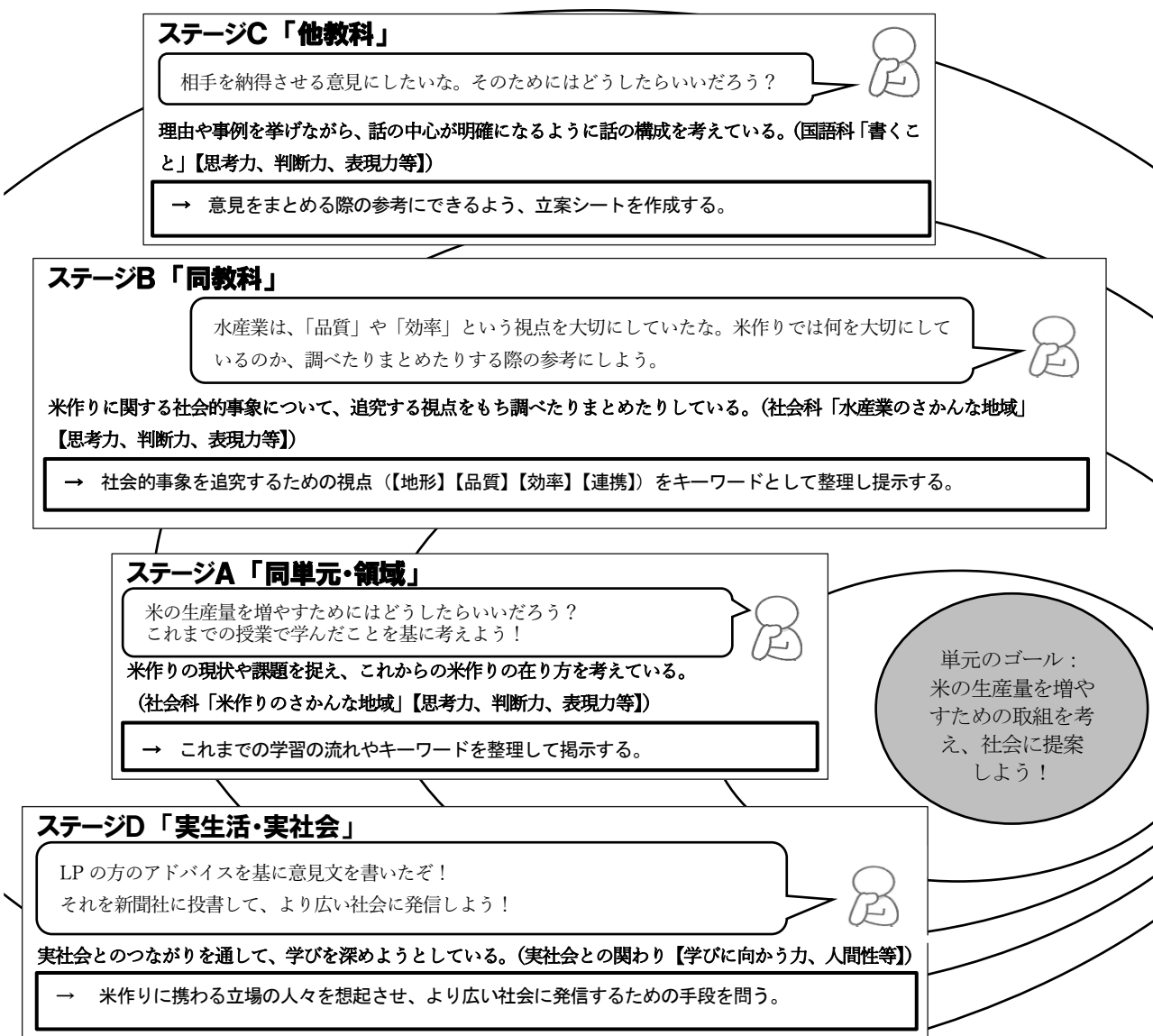
(3) 指導について

指導に当たっては、「つかむ」段階で日本産の米の品質に関する資料を提示したり、日本産の米と外国産の米を実際に食べ比べさせたりすることで、日本産の米の品質の高さに気付くことができるようにする。また、米の生産量や産地に関する資料を提示することで、「誰が」、「どのようにして」米作りを行っ

ているのか関心をもてるようにする。その上で、学習問題を設定し、学習の見通しをもつことができるようにする。「調べる」段階では、米作りが盛んな地域である庄内平野の取組やＪＡさが職員の方（以下、ＬＰ１）の話を基に、日本の米作りは「自然条件を生かして行われていること」、「米農家の方々の工夫や努力に支えられていること」、「ＪＡや農業試験場等の関係機関が連携していること」等について調べまとめることで、学習問題を解決することができるようにする。また、学習問題を解決し、まとめた段階で、米作りの課題に関する資料を提示し、児童が課題を把握したり課題解決への意欲を高めたりすることができるようにする。その上でパフォーマンス課題を設定し、日本の米作りが抱える課題の解決策を模索し、よりよい社会の在り方を考えていく学習への方向付けを行う。「高める」段階では、米の安定供給を実現するために、生産量を増加させる方策を練り合っていく。その際の「追究の視点」は、米の生産量を増加させることができるかという【実効性】、日本において実現できるかという【実現可能性】、長期的に取り組むことができるかという【持続可能性】の３つを用いる。「追究の視点」を基にした議論を行うことで、児童の考えがより社会性を帯びたものになるようにする。「広げる」段階では、農政局職員の方（以下、ＬＰ２）に意見をもらいながらよりよい社会の在り方について意見文にまとめる活動を取り入れ、実社会とのつながりを実感できるようにする。また、意見文を新聞社に投書することで、より広い社会に自分たちの考えを発信できるようにする。

(4) 期待する「回遊する学び」について

本単元及び本時における児童の姿を小学校全体テーマの「回遊する学び」に関わる内容と資質・能力に関連付け、下記のように整理する。



3 単元の目標と評価規準

(1) 単元の目標

我が国の食料生産について、米の生産過程や人々の協力関係、技術の向上等に着目して調べ、まとめることを通して、米の生産に関わる人々の工夫や努力を理解したり、日本の米作りの現状を把握し、課題の解決に向けて議論することを通して、これからの米作りの在り方について考えたりすることができるようにする。

(2) 評価規準

ア 我が国の食料生産について、地図帳や各種資料で調べ、適切にまとめることを通して、我が国の米の生産は自然条件を生かして営まれていることや、米の生産に関わる人々が生産性や品質を高めようと努力したり、輸送方法や販売方法を工夫して良質な米を消費地に届けようと努力したりしていること、日本の米作りは多くの課題を抱えていることを理解している。【知識・技能】

イ 米の生産の概要や生産に関わる人々の工夫や努力、これからの日本の米作りの在り方等について考えたことや調べたことを表現している。【思考・判断・表現】

ウ 米の生産の概要や、これからの日本の米作りの在り方等について、学習問題を意欲的に追究するとともに、よりよい社会の在り方について考えようとしている。【主体的に学習に取り組む態度】

4 単元の指導計画（全 12 時間 本時 11/12 時間目）

次	時	主な学習活動（○）	指導上の留意点（・）	評価規準（◆）【観点】	回遊
一（つかむ）	1	○資料を基に気付いたことや疑問を出し合い、学習問題を設定する。 【学習問題】 日本の食生活を支える美味しい米は、だれがどのようにして作り、私たちの元に届けているのだろう。	・米の生産量や産地、品質についての資料を提示し、米作りに関する関心や疑問をもつことができるようにする。	◆日本の米作りについて、資料を基に気付くことや疑問やもち、意欲的に学習問題を考えている。【主】	A D
	2	○学習問題の解決に向けて、学習計画を立てる。	・学習問題の解決に向けて何を調べるべきか問い、児童の疑問から学習計画を立てることができるようにする。	◆米作りに関する自分の疑問や他者の疑問を基に問いを見出し、解決の見通しをもっている。【主】	A
二（調べる）	3	○なぜ、庄内平野では米作りが盛んに行われているのか調べる。	・庄内平野の地形や気候に関する資料を提示し、自然条件に着目して米作りが盛んな理由をまとめることができるようにする。	◆庄内平野の地形と気候の様子を資料から読み取り、米作りが盛んな理由を考え、表現している。【思・判・表】	A B
	4	○どのようにして米作りが行われているのか、その様子や米農家の方の取組を調べる。	・米農家の方の話や農事ごよみを資料として提示し、よい稲を育てるための工夫や努力を理解することができるようにする。	◆米作りの様子や取組について調べ、よい稲を育てるための工夫や努力を理解している。【知・技】	A B
	5	○効率よく、大量に米を生産するために、どのような取組が行われているのか調べる。	・生産量と作業時間の資料を提示し、作業の機械化や圃場整備によって、効率よく米作りが行われるようになったことに気付くことができるようにする。	◆農作業の機械化や圃場整備についての資料を基に、効率よく米を生産することができるようになった理由を考え、表現している。【思・判・表】	A B
	6	○安全で、品質のよい米を生産するために、どのような取組が行われているのか調べる。	・米袋や米の品種ごとの特徴に関する資料を提示し、安全で品質のよい米を生産するために品種改良や有機栽培などの取組が行われていることに気付くことができるようにする。	◆農業試験場や農家、JA等様々な立場の人々が、品種改良や有機栽培等、安全で品質のよい米を作る取組を行っていることを理解している。【知・技】	A B
	7	○LP1の話を聞き、米作りを支える人々の働きについてまとめる。	・LP1の話を聞くことで、計画的な米の生産や、輸送・販売等、米作りを支える人々の働きを理解することができるようにする。	◆計画的な米の生産や、米の輸送・販売等、米作りを支える人々の働きを理解している。【知・技】	A D
三（高める）	8	○日本の米作りの課題に関する資料を基に、パフォーマンス課題を設定する。 【パフォーマンス課題】 米の安定供給の実現のために、生産量を増加させるプランを考え社会に発信しよう。	・米の値段の推移や生産量の推移についての資料を提示し、米作りの課題に気付く、解決の意欲を高めることができるようにする。	◆資料を基に日本の米作りの課題に気付く、意欲的に学習問題を解決しようとしている。【主】	A D
	9	○「追究の視点」を設定し、生産量を増加させるための取組について具体的に考える。	・児童の発言の中からキーワードを整理することで、児童にとって必要感のある「追究の視点」を設定できるようにする。	◆これまでの学習を踏まえて、「追究の視点」を設定したり、米作りの在り方について考えたりしている。【思・判・表】	A D
	10	○これからの米作りの在り方について、自分たちが考えた方策を提案する。	・「追究の視点」に沿った提案になるように、視点を確認する。 ・互いの方策のよさや課題を整理しやすくするため、ルーブリックを活用するよう促す。	◆互いの方策の問題点に気付く、改善案について考えようとしている。【主】	A B C D
	11 本時	○これからの米作りの在り方について、議論を行う。	・議論は互いの考えをよりよくするものという目的を確認し、考えを練り上げることができるようにする。 ・考えを練り上げることができるようにするため、LP2から評価をもらう。	◆これからの米作りの在り方について「追究の視点」を基に議論することで、互いの方策の改善案を考えている。【思・判・表】	A B C D
四（広げる）	12	○これからの米作りの在り方について、意見文を書く。	・LP2からの評価やアドバイスを基に作成した意見文を新聞社に投書することで、実社会とのつながりを実感できるようにする。	◆議論の中で明らかになった課題やLP2からの評価、アドバイスを基に、これからの米作りの在り方についての意見文を書いている。【思・判・表】	A B C D

5 本時の指導 (11/12)

(1) 指導目標

米の生産量を増加させるための取組について「追究の視点」を基に議論することで、これからの日本の米作りの在り方を多角的に考えることができるようにする。

(2) 評価規準

イ これからの米作りの在り方について「追究の視点」を基に議論することで、互いの方策の改善案を考えている。 【思考・判断・表現】

(3) 展開 (波線部は「回遊する学び」に関わる手立て)

学習活動と児童の反応 ()	教師の働きかけと形成的評価 (◆)
1 本時の学習の見通しをもつ。 (5分) ・自分たちの考えをよりよくしたいな。 ・他のグループの改善案も考えたいな。	1 <u>学習してきたことを踏まえた議論になるように、これまでの学習の流れや活用した資料を掲示しておく。(A B)</u>
米の生産量を増加させるための取組について話し合い、それぞれの考えをよりよいものにしよう。	
2 米の生産量を増加させるための取組について議論し、これからの米作りの在り方について多角的に考える。 (25分) (1) 各グループの提案内容を確認する。 【ア：月々5万円の補助金を給付し、労働者数を増加させる】 日本の米の生産量の減少は、米農家の減少と深い関係がある。実際に、米農家の数は1965年の488万戸から2015年には94万戸に減少し、それに伴い、米の生産量も同じ時期と比較して半分以上になっている。米農家の離職理由の主な要因として、「収入の不安定さ」が挙げられる。だから、収入を保証する補助金を給付すれば、米農家の数が増加し、結果的に、米の生産量の増加につながると考える。 【イ：品種改良によって病気や悪天候に負けない強い米を作る】 稲の病気や天候の影響で米が不作となり、生産量が大きく減少することがある。実際に、2023年の猛暑と少雨の影響で、米の生産が盛んな新潟県だけでも、生産量が約2割も減少した。そこで、不作の原因となる猛暑や少雨、病気に強い稲を品種改良で生み出すことで、安定的に米の生産量を増加させることができると考える。 【ウ：日本米の魅力を伝え、需要を増加させる】 日本の米の生産量の減少は、米の国内需要の低下と深い関係がある。1人当たりの米消費量は1960年に118kgだったが、2020年頃には53kgにまで落ち込んでいる。こうした個人の米の消費量の減少が、米農家の収益減少に繋がり、米の生産量の減少を引き起こしている。だから、日本米の品質や味の素晴らしさを伝えるために、国や県を挙げてそのよさをPRしていく。その結果、米の需要が増加し、米の生産量が増加していくと考える。 【エ：スマート農業を推進し、生産コストを低下させる】 日本の米作りは、人件費や燃料費、設備費等多くの生産コストがかかっている。経営規模1aの米農家は1kg当たり360円の生産コストがかかっており、経営黒字となる生産コストである1kg当たり187円を大きく上回っている。だから、ドローンを使用した直播栽培等のスマート農業を取り入れることで、米作りにかかる費用や稲作のコスト低減を図ることができ、米の生産量を増加させることにつながると考える。	2-(1) 互いの提案内容が理解できるようにするため、各グループが準備した資料を配布する。 2-(2) <u>それぞれの意見を評価しやすくするために、「追究の視点」である【実効性】【実現可能性】【持続可能性】に合わせたルーブリックを活用するように促す。(A C)</u> 2-(3) <u>議論の内容を整理するために、必要に応じて児童の発言に対し補足や問い返しをする。(B C)</u> 2-(4) <u>考えの理由と根拠に着目し、「追究の視点」を基に、質問や意見を述べるように促す。(C)</u> 2-(5) <u>それぞれの意見を可視化するために、ポイントとなる児童の発言を板書したり矢印でつないだりする。(A D)</u> ◆ <u>これからの米作りの在り方について「追究の視点」を基に議論することを通して、互いの方策の問題点に気づき、改善案について考えているか。(ノート、発言)【思・判・表】</u> B 理由と根拠に着目し、「追究の視点」を基に自分や相手の考えの改善案を考えている。 C→ 他のグループの案について、疑問に思うことはないか問う。また、その理由を問い、改善案を友達と考えるよう促す。
(2) 各グループの提案について、議論を行う。 (3) 各グループの提案を評価する。 3 LP2から評価をもらう。 (5分) 4 議論の中で出た意見や、LP2からの意見を基に、各グループで改善案を考える。 (7分) 5 今後の学習の見通しをもつ。 (3分) ・他のグループからもらった意見や、LPの方のアドバイスを基に自分たちの案を修正し、意見文を書きたい。	2-(6) <u>それぞれの提案のよい点や改善すべき点を明確にするために、評価を点数化する。</u> 3 <u>費用や設備の面で実現可能なのか、米の生産量を増加させる効果があるのか等、「追究の視点」を踏まえた評価をしてもらう。(D)</u> 4 <u>各グループからの評価やLP2からの意見を基に見出した改善すべき点を中心に、改善案を考えるよう促す。(D)</u> 5 次時では、今後の米作りの在り方について意見文を書いて新聞社に投書し、自分たちの考えを社会に発信することを確認する。